

北部病院だより 第103号(2017.1)

Showa University Northern Yokohama Hospital

【巻頭言】 新年のご挨拶

【患者さんからのご意見・ご要望】

【医師の配属・異動】 【診療統計】

【TOPICS】 都筑区合同災害医療対策訓練を行いました。

【TOPICS】 キャンドルサービスを行いました。

【TOPICS】 MOA 美術館都筑児童作品展を開催しました。





病院長 世良田 和幸

明けましておめでとうございます。

昨年一年間を振り返り、皆様にとって平成 28 年はどんな年だったでしょうか？

そして、平成 29 年はどんな年にしたいか、皆様は抱負をお持ちですか？

当院は、今年の 4 月で開院 17 年目を迎えます。17 年目ともなりますと、開院時に購入した医療機器や備品のリニューアルをはじめ、院内各所の修繕、修理も必要となっています。医療安全の見地から、また患者さんや職員に満足頂ける環境を構築する意味でも行わなければならない一連の業務です。

また、患者さんに投書頂いているご意見を参考にしながら、今、この病院で改善しなければならないことを出来ることから行い、様々な視点からの改革を行いつつあります。全ての方々に満足いただくまでには少し時間がかかるかもしれませんが、人員、設備、環境を整えていくことにより、患者さんの満足度向上、職員の離職率低下にもつながっていくと考えています。

当院は、横浜市の北部医療圏の地域中核病院、災害拠点病院としての任務を担っています。近隣の医療機関との連携や地域住民の皆様方への信頼と安心を担保することは勿論ですが、この病院を受診する患者さんに的確な診断と治療を、そして病院内での患者さんに対する職員の業務もご満足の頂けるものにしたいと思っています。

今年の課題はいくつか考えられます。まず、来年度の新専門医制度に向けての整備や 4 月から始まる予定の土曜日の午後の診療体制の準備、病院における ISO の取得に向けての院内連携の強化などです。ISO (International Organization for Standardization) の取得に関しては、この品質マネジメントシステムを取得するという目標を全職員が持つことで、病院全体のモチベーションが向上すると考えています。ISO には、メリット、デメリットがありますが、責任と権限が明確になり、作業手順の効率化が可能になるなど、医療業務の中で役立つことが多くあります。ISO にはいくつかの種類もありますが、どの方向にどのようにアプローチしていくかを考えることも重要な要素です。

2017 年が当院にとってどんな年になるかは、この病院の全職員の努力次第です。病院の職員が楽しく仕事が出来なければ、患者さんに笑顔を向けることも出来ません。今年も、様々な試練を乗り越えていかなければなりません。来院される患者さんの癒しとなるよう、また病気から早期回復されることを心からお祈りいたします。

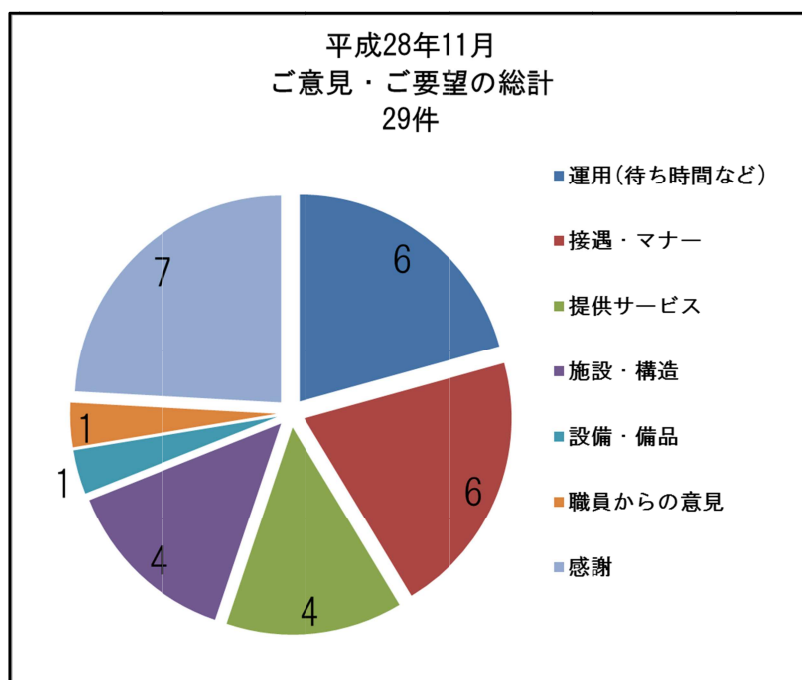
患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんより頂きましたご意見・ご要望に関しましては、院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきます。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
<運用について> 入院中、手術後で動けない時に同室の患者の面会が騒がしかった。動ける患者と動けない患者を分けたほうが良いのではないかと。 他計 6 件	十分な配慮が出来ず申し訳ありませんでした。基本的には病棟責任者が患者さんのベッドの調整の指示を致しますので、不都合な点や不自由な点がございましたらご遠慮無く師長にお伝え下さい。病室内での面会や雑音などにつきましては、巡回時などに十分注意し対応してまいります。
<提供サービスについて> デイルーム入口の移動販売の台車ですが、その前にお客さんが立って、通路を通りたい人がずっと待ってしまっている。店員も気付いているにも関わらず一言も注意していなかった。通行の邪魔にならないように配慮すべきでは。 他計 4 件	移動販売において配慮に欠ける行動が有りましたことを深くお詫び申し上げます。改善策として、カートをよりデイルーム奥側に移動し、通路幅を確保いたします。また、往來に支障がないように周辺状況を注視いたします。
<感謝について> 昨年胸椎 1 番にガンの転移があり、整形外科の手術の後、消化器・泌尿器科にてガンの治療を受け、緩和ケア病棟に 2 ヶ月間入院となりました。痛みも落ち着いて退院したが、医師・看護師・相談員さんの丁寧な対応に感謝申し上げます。ガンの説明・治療についても時間を十分かけて説明してくださり、納得のいく治療が受けられました。ありがとうございました。	



医師の配属・異動・退職

新規配属医師

2016 年 12 月

【新規採用】

・ 野崎 伸次 (メンタルケアセンター) 昭和大学 平成 1 年卒

【附属施設より】

・ 杉山 達也 (脳神経外科) 大学病院 脳神経外科より
・ 平林 千寿 (こどもセンター) 藤が丘病院 小児科より
・ 村上 大軌 (放射線科) 江東豊洲病院 放射線診断科より
・ 河野 春香 (産婦人科) 江東豊洲病院 産科より
・ 三輪 祐 (皮膚科) 東病院 皮膚科より
・ 竹内 誠也 (外科) 藤が丘病院 形成外科より
・ 小金澤 征也 (こどもセンター) 藤が丘病院 小児科より
・ 田代 祐基 (放射線科) 藤が丘病院 放射線科より

【配置転換】

・ 武田 健一 (救急センター ⇒ 消化器センター)

【学外研修・国内留学終了】

・ 小形 典之 (消化器センター)

異動・退職医師

2016 年 12 月

【附属施設へ】

・ 谷岡 大輔 (脳神経外科 ⇒ 藤が丘病院 脳神経外科)
・ 布山 正貴 (こどもセンター ⇒ 藤が丘病院 小児科)
・ 豊福 康介 (放射線科 ⇒ 大学病院 放射線科)
・ 荻原 麻里 (皮膚科 ⇒ 東病院 皮膚科)
・ 楊 美優 (外科 ⇒ 藤が丘病院 形成外科)
・ 山本 将平 (こどもセンター ⇒ 藤が丘病院 小児科)

【学外研修】

・ 森 悠一 (消化器センター) ・ 山口 摩佑子 (産婦人科)

【退職】

・ 嶋田 摂也 (眼科)

診療統計

前年同月比 ()内は 1 日平均

診療実日数 2015 年 11 月 (入院：30 日・外来：23 日)、2016 年 11 月 (入院：30 日・外来：23 日)

	入院患者数	外来患者数	救急搬送数	手術件数
2015 年 11 月	17,223 人(574.1 人)	26,780 人(1,164.3 人)	380 件(12.7 件)	697 件(36.7 件)
2016 年 11 月	17,932 人(597.7 人)	26,616 人(1,157.2 人)	416 件(13.9 件)	645 件(32.3 件)

平成28年度都筑区合同災害医療対策訓練に参加しました。

都筑区合同災害医療対策訓練
開会式



都筑区では、市域に震度 6 弱以上の地震が発生した場合、休日急患診療所及び区役所を仮設救護所として開設することになっています。そこでトリアージが行われ、病院で治療が必要な患者さんは当院へ搬送される流れになっています。毎年、災害時に備え、都筑区医師会、都筑区薬剤師会、都筑警察署や都筑消防署及び当院が連携し訓練を行っています。

本年度は平成 28 年 12 月 10 日（土）につづき病院、都筑区訪問看護連絡会も加わり、災害対応力や関係機関の連携強化、救護システムの構築を図る目的で、トリアージ訓練や本部訓練が実施され、当院も参加しました。

以下にその様子を一部紹介させていただきます。

《トリアージ訓練の様子》

今回の訓練は横浜市内最大震度 7 の地震が発生し、負傷者が仮設救護所（都筑区休日急患診療所）に押し寄せてくる想定で実施しています。

右の写真では、医師がトリアージを行っている場面になります。トリアージとは、災害時の限られたスタッフや医薬品等の医療機能を最大限に活用して、可能な限り多数の傷病者の治療にあたるため、治療の優先順位を分類する作業です。右記のようなトリアージタグを使って患者さんの状態を色分けして迅速に判断していきます。

実際に災害が発生した時のように緊迫感ある様子で、訓練が実施されました。

トリアージ・タグ				
氏名	氏名 (Name)	性別	年齢	傷の程度 (傷の程度)
氏名 (Name)	氏名 (Name)	性別	年齢	傷の程度 (傷の程度)
トリアージ実施場所・科目			トリアージ実施者氏名	
日	時	分	分	
救急搬送機関名			救急搬送機関名	

トリアージ実施場所	
意識	意識 (意識の有無) 覚醒している
呼吸	呼吸 (呼吸の有無) 呼吸が正常
脈拍	脈拍 (脈拍の有無) 脈拍が正常
血圧	血圧 (血圧の有無) 血圧が正常
瞳孔	瞳孔 (瞳孔の有無) 瞳孔が正常
四肢	四肢 (四肢の有無) 四肢が正常
トリアージ区分	0 I II III

0

I

II

III



《本部訓練の様子》

左の写真は、本部で患者情報を取りまとめている場面です。早急に治療が必要な患者さんを病院に搬送するために、仮設救護所、区役所の災害対策本部、つづき病院、当院で無線機を使用し、受け入れ要請から実際に搬送するまでの訓練を行いました。

本部訓練で重要なのは、いつ何が起きてどのような対応をしたのか、また現在どのような患者さんが治療を待っているのかなど、あらゆる情報を統括することです。

一覧表にして逐一書き出し、状況把握ができるように取り組まれていました。



TOPICS

キャンドルサービスを行いました。

平成 28 年 12 月 13 日（火）、昭和大学医学部附属看護専門学校
の学生によるキャンドルサービスが行われました。キャ
ンドルサービスは看護専門学校の創立時から続く伝統行事で、入
院患者さんにクリスマスの雰囲気味わってもらうとともに、
快気を祈って行っているものです。



当院では今年で 4 回目となり、32 名の学生が 2 つのグループに
分かれて、ろうそくの柔らかな火を手にしなが、西棟産科病棟・
西 2 階病棟・緩和ケア病棟・4B 病棟（小児病棟）を訪れました。

『きよしこの夜』『もろびとこぞりて』と言ったりクリスマスソング
をお届けするだけでなく、手作りのクリスマスカードも患者さん
にお配りし、クリスマスの雰囲気を病棟にもたらししました。

MOA美術館都筑児童作品展 入賞作品特別展が開催されました。

平成 28 年 12 月 5 日（月）より、北部病院の中央棟と西棟の
渡り廊下壁面に「MOA 美術館都筑児童作品展 入賞作品特別
展」と題して小学生が作成した絵画作品が展示されました。こ
れは、静岡県にある MOA 美術館が、次世代を担う子供たちが創
作活動を通し、「生命を尊ぶ心」「豊かな人間性」などの健全な
育成が図られることを願い、社会教育ならびに情操教育の一環
として、この児童作品展を開催しているもので、都筑区におい
ても今回第 21 回目の児童作品展が開催されました。



いくつかの小学校の児童 1 年生から 6 年生が描いたもので、「MOA 美術館奨励賞」や「横浜市長賞」
など入賞作品全 18 点を北部病院に展示しました。病院に来られた患者さんを始め職員など絵画の前
を通る方たちは、小学生が描いたものとは思えないとても繊細かつ躍動感あふれた絵画に感心し、「こ
れ小学生が描いたの？最近の子どもは絵が上手いね」などと驚いていました。

干支も申から酉にバトンタッチされ、新しい年が始まりました。
今年はどのような年になりますでしょうか？年末の小欄に「穏やか
な年」であったと総括出来るような 1 年になって欲しいと思います。
そのためには、まずは健康第一、差し当たってはインフルエンザ、
感染性胃腸炎対策です。うがい、手洗いの励行をお願いします。そ
して、もうひと月もすると鬱陶しいアイツがやってきます。昨夏、
西日本は猛暑であったために多量飛散が予想されていますが、東日
本は例年通りだそうです。でも、迷惑な奴です。次号は、そうです。
『花粉症』の対策、治療を特集します。ご期待下さい。

最後になりましたが、今年も『北部病院だより』のご愛読をお願
い申し上げます。

広報委員 緒方 浩顕

北部病院だより 第 103 号

平成 29 年 1 月 1 日発行

発行責任者 世良田 和幸（昭和大学横浜市北部病院長）

編集責任者 緒方 浩顕（広報委員会 委員長）

発行 地域中核病院 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL : <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』
がご覧いただけます。